

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-154935

(P2001-154935A)

(43) 公開日 平成13年6月8日(2001.6.8)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 6 F 13/00

識別記号

3 5 1

F I

G 0 6 F 13/00

テ-マコ-ド*(参考)

3 5 1 G 5 B 0 8 9

審査請求 未請求 請求項の数12 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号

特願平11-341644

(22) 出願日

平成11年12月1日(1999.12.1)

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 井上 義彦

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

(74) 代理人 100079843

弁理士 高野 明近 (外2名)

Fターム(参考) 5B089 GB03 JA31 KA13 KB10 KC34

KC36 KC44 KC46 KC51 LA14

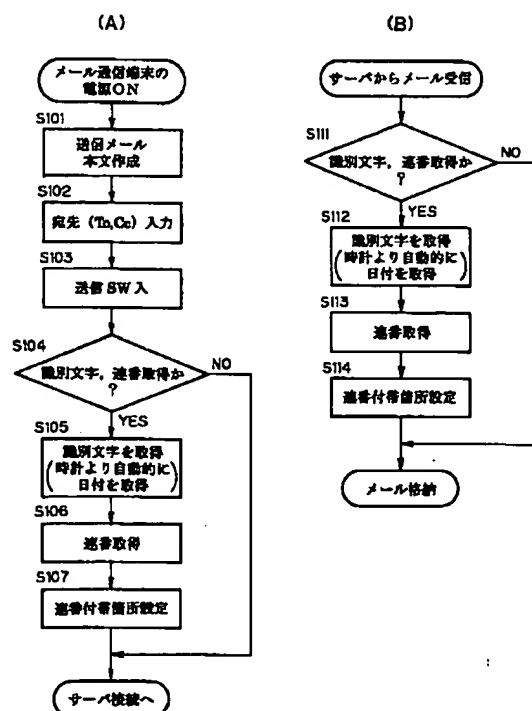
LA15 LA19

(54) 【発明の名称】 メール管理方法

(57) 【要約】

【目的】 既存のメールフォーマットを活用し、電子メールに識別文字と連番の組み合わせを付加することによりメールを管理する。

【構成】 利用者は、送信メールの本文を作成し(S101)、宛先(TO, CC)を入力し(ステップS102)、送信キーを押下する(ステップS103)と、対象電子メールに識別文字と連番を取得し付加するか否かの選択ダイアログが開く(ステップS104)。「付加しない」を選択した場合には、エンコーダ7、送信部6、電話回線1を介しサーバーへ接続する。「付加する」を選択した場合は、まず、識別文字としての日付けを、時計10から自動的に取得する(S105)。続いて識別文字毎の連番を取得する(ステップS106)。最後に、その識別文字と連番の付帯箇所を既存のフィールドに設定した上で(ステップS107)、サーバーへ接続する。その後、メールを送信し、RAM9にある送信済みメールをROM8に格納する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 送、受信時に、電子メールの送、受信メールに識別文字と連番を組み合わせた情報を付加し記憶することにより、利用者がこの情報により容易にメールを閲覧、整理、検索ができるようにしたことを特徴とするメール管理方法。

【請求項2】 前記識別文字を、日付とし、送、受信時に、時計より、それを自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの送、受信メールに付加することを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項3】 前記識別文字を、宛先の代表者のメールアドレスの一部もしくは全部の文字列とし、送信時に、宛先フィールドより、その情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの送信メールに付加することを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項4】 前記識別文字を、送信者のメールアドレスの一部もしくは全部の文字列とし、受信時に、送信者フィールドより、その情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの受信メールに付加することを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項5】 前記識別文字を、宛先の代表者のアドレス帳の登録名とし、送信時に、アドレス帳よりその情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの送信メールに付加することを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項6】 前記識別文字を、送信者のアドレス帳の登録名とし、受信時に、アドレス帳よりその情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの受信メールに付加することを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項7】 電子メール送、受信時に、ダイアログが開き、前記識別文字として任意の文字列を入力することができ、入力された前記文字列と前記連番とを組み合わせ電子メールの送、受信メールに付加することを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項8】 電子メールの送、受信データに、前記識別文字と前記連番を組み合わせた情報を既存の表題フィールドに付加し記憶することにより、利用者がこの情報により容易にメールを閲覧、整理、及び検索ができるようにしたことを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項9】 電子メールの送、受信データに、前記識別文字と前記連番を組み合わせた情報を既存の本文フィールドに付加し記憶することにより、利用者がこの情報により容易にメールを閲覧、整理、及び検索ができるようにしたことを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項10】 電子メールの送、受信データに、前記識別文字と前記連番を組み合わせた情報を連番専用フィールドに付加し記憶することにより、利用者がこの情報に

より容易にメールを閲覧、整理、及び検索ができるようにしたことを特徴とする請求項1に記載のメール管理方法。

【請求項11】 請求項10に記載のメール管理方法において、利用者が電子メールの送、受信時に前記連番専用フィールドを付帯し送、受信するか否かを選択できるようにしたことを特徴とするメール管理方法。

【請求項12】 請求項1乃至11のいずれか一項に記載の電子メール管理方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子メールの送、受信データの閲覧、整理、及び検索を行う電子メールの管理方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】電子メールに、識別、整理、検索を目的とし識別文字を追加する方法として、対象メールに対しての返信及び転送において表題フィールドに返信には“RE:”転送には“FW:”の識別文字を追加する方法がある。また、従来の電子メールの管理方式には、特開平10-49453号公報に開示されているようにコンピュータネットワークシステム上に構築され、送、受信側双方でメールを解析すれば整理作業まで自動的に実施され、利用者の負担が軽減されるようになったものが知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前者の方法に採用された電子メールの識別文字のみの追加だけでは、システム的には膨大になることはなく、市販されている製品のほとんどのメーカーが採用している。しかしながら、この方法では返信、転送の区別しか識別できなく、整理及び検索作業にはけっして便利であるとは言えない。また、後者の特開平10-49453号公報に記載されたものは、電子メール管理方式が、コンピュータネットワークシステム上に構築され、送、受信側双方でメールを解析すると整理作業までも実現でき非常に便利である。しかしながら付加される情報の種類も多く、システム的には大規模になりがちである。

【0004】本発明は、上記したような実情に鑑みてなされたもので、従来の電子メールの基本的なフォーマットに、識別文字と連番を同時に付加することにより、大規模なシステムを構築することなく、容易にメールの閲覧、整理及び検索を行うことができる方法を提供することを目的としている。

【0005】また、本発明は、識別文字を、分類項目として用いることにより、目的別の管理ができるようにすることを目的としている。また、本発明は、生成された識別文字と連番の組み合わせを付加するフィールドを選択

して設定することにより管理方法を変更できるようにすることを目的としている。さらに、本発明は、付加した識別文字と連番の組み合わせを付帯するか否かの選択可能とすることにより、利用者の利便性を高めることを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明のメール管理方法は、送、受信時に、電子メールの送、受信メールに識別文字と連番を組み合わせた情報を付加し記憶することにより、利用者がこの情報により容易にメールを閲覧、整理、検索ができるようにしたものである。

【0007】さらに、前記識別文字を、日付とし、送、受信時に、時計より、それを自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの送、受信メールに付加するようにしたものである。

【0008】さらに、前記識別文字を、宛先の代表者のメールアドレスの一部もしくは全部の文字列とし、送信時に、宛先フィールドより、その情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの送信メールに付加するようにしたものである。

【0009】さらに、前記識別文字を、送信者のメールアドレスの一部もしくは全部の文字列とし、受信時に、送信者フィールドより、その情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの受信メールに付加するようにしたものである。

【0010】さらに、前記識別文字を、宛先の代表者のアドレス帳の登録名とし、送信時に、アドレス帳よりその情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの送信メールに付加するようにしたものである。

【0011】さらに、前記識別文字を、送信者のアドレス帳の登録名とし、受信時に、アドレス帳よりその情報を自動的に取得し、前記連番と組み合わせ、電子メールの受信メールに付加するようにしたものである。

【0012】さらに、電子メール送、受信時に、ダイアログが開き、前記識別文字として任意の文字列を入力することができ、入力された前記文字列と前記連番とを組み合わせ電子メールの送、受信メールに付加するようにしたものである。

【0013】さらに、電子メールの送、受信データに、前記識別文字と前記連番を組み合わせた情報を既存の表題フィールドに付加し記憶することにより、利用者がこの情報により容易にメールを閲覧、整理、及び検索ができるようにしたものである。

【0014】さらに、電子メールの送、受信データに、前記識別文字と前記連番を組み合わせた情報を既存の本文フィールドに付加し記憶することにより、利用者がこの情報により容易にメールを閲覧、整理、及び検索ができるようにしたものである。

【0015】そして、電子メールの送、受信データに、前記識別文字と前記連番を組み合わせた情報を連番専用フ

ィールドに付加し記憶することにより、利用者がこの情報により容易にメールを閲覧、整理、及び検索ができるようにしたものである。

【0016】さらに、電子メールの送、受信データに、前記識別文字と前記連番を組み合わせた情報を連番専用フィールドに付加、記憶し、利用者が電子メールの送、受信時に前記連番専用フィールドを付帯し送、受信するか否かを選択できるようにしたものである。

【0017】

10 【発明の実施の形態】ここでは、本発明の実施の形態を、大規模なシステムを構築することは不可能な携帯メール端末に適用したものについて説明する。図16は、携帯メール端末の内部構成を示すブロック図である。携帯メール端末は、電話回線1を利用してメールを送信する送信部6と、テキストのメールを送信するメールフォーマットに変換するエンコーダ7と、メールを受信する受信部2と、受信したメールフォーマットをテキストに変換するデコーダ3と、これらの制御を行うCPU4を備えている。また、記憶手段としてROM8、RAM9を備えている。ROM8は、書き換え可能なROM（例えばEPROM）で、中にはCPU4を動作させるためのプログラム等が格納されている。RAM9は受信したメール、送信したメールを一時的に記憶したり、CPU4のワークメモリとして使用される。そのほか、メールサーバーに接続する際のユーザID、パスワード、接続先等の設定情報も記憶される。さらに、メール入力、各種設定入力を行うためのキーボード11と、メールや各種設定内容等を表示するための例えば液晶表示のような表示装置5と、時計10を備えている。以下、本発明を、この携帯メール端末に適用した場合の実施例を、図面を参照しながら説明する。

【0018】（第1実施例）図1（A）は、本発明に係るメール管理方法の第1実施例の送信時の処理手順を示すフローチャート図である。また、図1（B）は、本実施例の受信時の処理手順を示すフローチャート図である。

【0019】まず、送信時の処理について、図1（A）を用いて説明する。利用者が、キーボード11内のONキーを押下することにより、ON信号がCPU4に入力され動作を開始する。利用者は、キーボード11を使用し、送信メールの本文を作成し（S101）、次に、宛先（TO、CC）を入力する（ステップS102）。そして、キーボード11内の送信キーを押下する（ステップS103）と、対象電子メールに識別文字と連番を取得し付加するか否かの選択ダイアログが開く（ステップS104）。「付加しない」を選択した場合には、エンコーダ7、送信部6、電話回線1を介しサーバーへ接続する。「付加する」を選択した場合は、まず、識別文字としての日付けを、時計10から自動的に取得（例えば、1999年9月1日であれば、“990901”と

する)する(ステップS105)。続いて識別文字毎の連番(例えば、1999年9月1日の最初のレターであれば“001”とする)を取得すると、この例では“990901-001”となる(ステップS106)。最後に、その識別文字と連番の付帯箇所を設定した上で(ステップS107)、サーバーへ接続する。その後、メールを送信し、RAM9にある送信済みメールをROM8に格納する。

【0020】受信時の処理については、図1(B)を用いてサーバーからメールを受信したところから説明する。電話回線1より受信部2、デコーダ3を介し受信されたメールは、まずRAM9に一時的に保管され、対象電子メールに、識別文字と連番を取得し付加するか否かの選択ダイアログが開く(ステップS111)。「付加しない」を選択した場合には、そのまま当該電子メールをRAM8に格納する。「付加する」を選択した場合は、識別文字を、送信時と同様に、時計10から自動的に日付を取得(ステップS112)し、続いて、これも送信時と同じように識別文字毎の連番を取得(ステップS113)する。そして、最後に、その連番の付帯箇所を設定(ステップS114)し、ROM8へ格納する。このようにして、ROM8に格納された送、受信メールを、識別文字と連番をキーワードとし整列させると、送、受信した日付毎に、連番順に並び、容易に整理、検索、閲覧ができる。図2は、このとき表示装置5に表示されるメールの画面例を示す図である。付帯箇所として件名フィールドを設定したものである。

【0021】(第2実施例)図3は、本発明に係るメール管理方法の第2実施例の送信処理手順を示すフローチャート図である。以下、フローチャート図における処理手順の説明は、それ以前の実施例と共通する部分は同じであるので省略し、相違点のみを説明する。本実施例と第1実施例との相違点は、識別文字の取得処理段階であるステップS305における識別文字が“日付”から、“宛先フィールドの代表者のメールアドレスの一部もしくは全部”に変わっている点である。例えば、宛先の代表者のメールアドレスが、“taro@sharp.co.jp”であれば、識別文字は“taro@sharp”となる。続いて識別文字毎の連番を取得すると、例えば“taro@sharp-001”となる(ステップS306)。図4は、このとき表示されるメールの画面例を示す図である。識別文字と連番の付帯箇所は、件名フィールドが設定されている。

【0022】(第3実施例)図5は、本発明に係るメール管理方法の第3実施例の受信処理手順を示すフローチャート図である。第1実施例との相違点は、識別文字の取得処理段階であるステップS502における識別文字が“送信者フィールドのメールアドレスの一部もしくは全部”に変わっている点である。例えば、送信者のメールアドレスが“taro@sharp.co.jp.”

であれば、本実施例における識別文字は“taro@sharp”となる。続いて識別文字毎の連番を取得する(ステップS503)と、“taro@sharp-002”となる。

【0023】このようにして格納された送、受信メールを、識別文字と連番をキーワードとし整列させると、前記第2実施例及び本実施例の場合は、送、受信者のメールアドレスの一部もしくは全部毎に連番順に並び、容易に整理、検索、閲覧が可能である。利便性のよい使用方法としては、一般的にメールアドレスには会社名が含まれている場合が多いので、識別文字として会社名を設定すれば、自動的に会社毎のレターに会社名と連番が付加され、それをキーワードとして検索すれば、その会社との経緯が容易に確認できる。

【0024】(第4実施例)図6は、本発明に係るメール管理方法の第4実施例の送信処理手順を示すフローチャート図である。第2実施例からの相違点は、識別文字を取得する段階であるステップS605が“宛先フィールドの代表者の情報を利用しアドレス帳の登録名を自動的に取得する”となっている点である。例えば、宛先の代表者のメールアドレスが“taro@sharp.co.jp.”で、そのアドレス帳の登録名が“山田太郎”であると、メールアドレス“taro@sharp.co.jp.”を検索し、そのアドレス帳の登録名である“山田太郎”を自動的に取得する。続いて識別文字毎の連番を取得する(ステップS606)。ここでは“山田太郎-001”となる。図7は、このとき表示されるメールの画面例を示す図である。識別文字と連番の付帯箇所として件名フィールドを設定したものである。

【0025】(第5実施例)図8は、本発明に係るメール管理方法の第5実施例の受信処理手順を示すフローチャート図である。第3実施例との相違点は、識別文字を取得するステップS802が“送信者フィールドの情報を利用しアドレス帳の登録名から自動的に取得する。”となっている点である。例えば、送信者のメールアドレスが“taro@sharp.co.jp.”で、登録名が“山田太郎”である場合、送信者のメールアドレスを検索し、山田太郎を自動的に取得する。続いて識別文字毎の連番を取得する。ここでは“山田太郎-002”とする(ステップS803)。このようにして格納された送、受信メールを、識別文字と連番をキーワードとし整列させると、第4実施例及び本実施例の場合は、送受信者のアドレス帳の登録名毎に連番順に並び、容易に整理でき検索し閲覧できる。便利な使用方法としては、氏名だけでなく郵便番号、県名及び会社名等を識別文字とすれば、それぞれ任意の項目で分類できる。

【0026】(第6実施例)図9(A)は、本発明に係るメール管理方法の第6実施例の送信時の処理手順、図9(B)は、受信時の処理手順をそれぞれ示すフローチャート図である。第1実施例との相違点は、ステップS

905、S912であり、識別文字として開かれたダイアログに任意の文字列を入力することにある。例えば、自分の趣味が釣で、それに関するメールを分類する場合は、“釣”を入力する。続いて、識別文字毎の連番を取得する。ここでは、“釣-001”とする。この場合、格納された送、受信メールを、この入力した識別文字と連番をキーワードとし整列させると、入力した任意の文字列毎に連番順に並び、入力する文字には自由度があるので、自分好みに整理でき、かつ検索し閲覧できる。図10は、このとき表示されるメールの画面例を示す図である。識別文字と連番の付帯箇所として件名フィールドを設定したものである。

【0027】(第7実施例)図11(A)は、本発明に係るメール管理方法の第7実施例の送信時の処理手順、図11(B)は、受信時の処理手順をそれぞれ示すフローチャート図である。本実施例と第1～6実施例との相違点は、ステップS1107、S1114であり、取得した認識文字と連番の付帯箇所を、表題フィールドに設定した点である。

【0028】(第8実施例)図12(A)は、本発明に係るメール管理方法の第8実施例の送信時の処理手順、図12(B)は、受信時の処理手順をそれぞれ示すフローチャート図である。第7実施例との相違点は、ステップS1207、S1214であり、取得した認識文字と連番の付帯箇所を本文フィールドに設定した点である。図13は、このとき表示されるメールの画面例を示す図である。識別文字と連番の付帯箇所として本文フィールドが設定されている。第7及び第8実施例については、表題フィールドあるいは本文フィールドは、現在使われているすべてのメールがもつ既存のフィールドであるのでシステムを構築する際に手間が掛からず、小さなシステムでも実現可能である。

【0029】(第9実施例)図14(A)は、本発明に係るメール管理方法の第6実施例の送信時の処理手順、図14(B)は、受信時の処理手順をそれぞれ示すフローチャート図である。これまでの実施例との相違点は、ステップS1407、1414であり、取得した認識文字と連番の付帯箇所を連番専用フィールドに設定した点である。図15は、このとき表示されるメールの画面例を示す図である。識別文字と連番の付帯箇所として連番フィールドが新設されている。本実施例では、既存のフィールドとは別に連番専用フィールドを増設しなければならないが、独立した連番だけのフィールドである為、当該メールにその連番を付帯するか否かを選択することができる。

【0030】

【発明の効果】本発明のメール管理方法によれば、対象メールを自動的、もしくは利用者の便宜に応じて任意に識別文字と連番を付加した上で記憶し、その情報を利用

することにより利用者に負担をかけることなく電子メールを容易に整理でき検索し閲覧できる環境を提供することができる。そして、認識文字と連番を付加するフィールドを指定することができ、それが現行のメールフォーマットの既存フォルドの場合は、小規模なシステムで実現することができ、本方法以外のメール利用者へも送受信が可能である。また、付加するフィールドを連番専用フィールドとした場合は、送信前に連番を付加するか否かを選択することができ、受信者に余分な情報を開示しないことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るメール管理方法の第1実施例の送信及び受信時の処理手順を示すフローチャート図である。

【図2】本発明の第1実施例において表示される画面例を示す図である。

【図3】本発明に係るメール管理方法の第2実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

【図4】本発明の第2実施例において表示される画面例を示す図である。

【図5】本発明に係るメール管理方法の第3実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

【図6】本発明に係るメール管理方法の第4実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

【図7】本発明の第4実施例において表示される画面例を示す図である。

【図8】本発明に係るメール管理方法の第5実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

【図9】本発明に係るメール管理方法の第6実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

【図10】本発明の第6実施例において表示される画面例を示す図である。

【図11】本発明に係るメール管理方法の第7実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

【図12】本発明に係るメール管理方法の第8実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

【図13】本発明の第8実施例において表示される画面例を示す図である。

【図14】本発明に係るメール管理方法の第9実施例の処理手順を示すフローチャート図である。

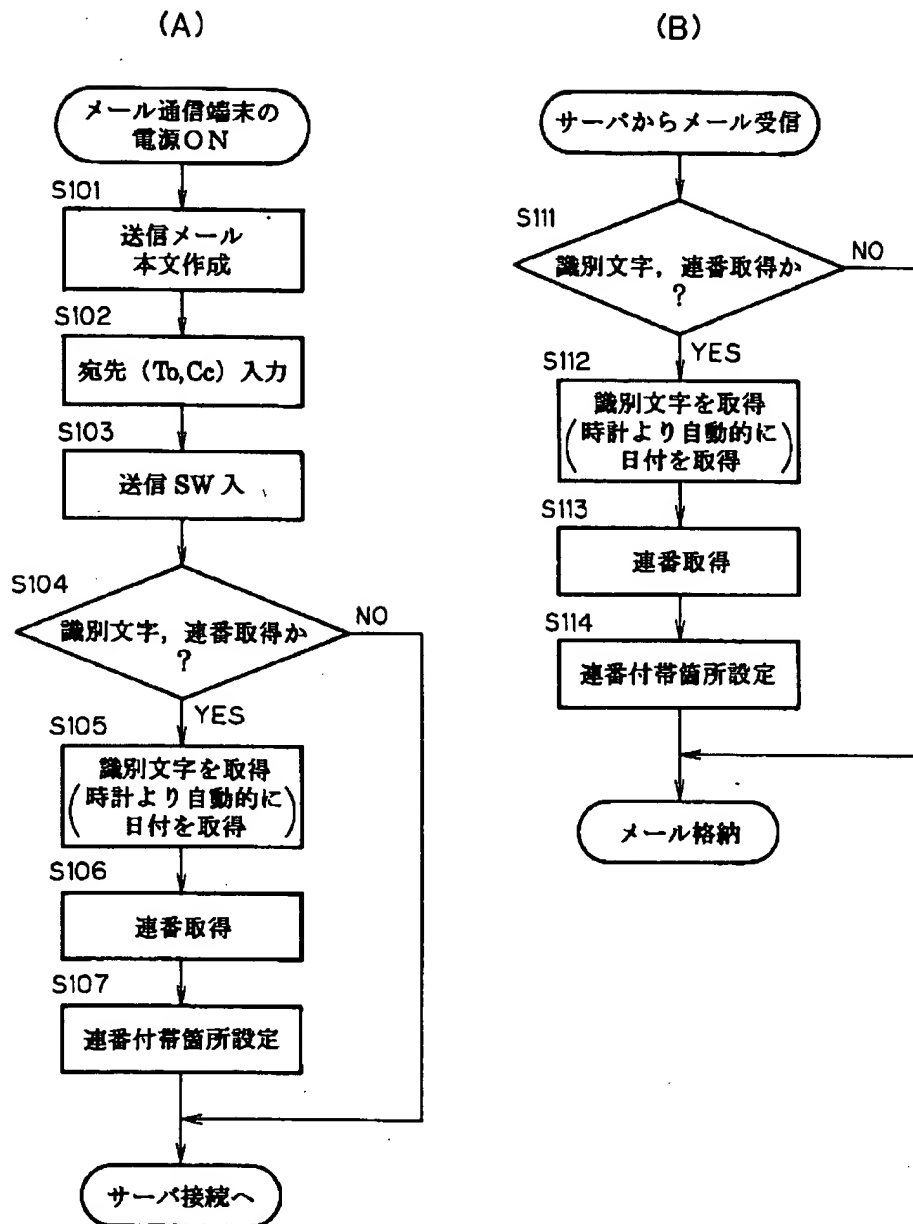
【図15】本発明の第9実施例において表示される画面例を示す図である。

【図16】本発明のメール管理方法を実施する携帯メール端末の構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

1…電話回線、2…受信部、3…デコーダ、4…CPU(制御部)、5…表示装置、6…送信部、7…エンコーダ、8…ROM、9…RAM、10…時計、11…キーボード。

【図1】



【図4】

送信者 : taro@sharp.co.jp
 日時 : 1999年9月1日
 宛先 : jiro@nara.co.jp
 cc : saburo@nihon.co.jp
 件名 : taro@sharp-001 次回会合の件

この間はありがとうございました。さて次

【図7】

送信 : jiro@nara.co.jp
 日時 : 1999年9月1日
 宛先 : taro@sharp.co.jp
 cc : saburo@nihon.co.jp
 件名 : 山田太郎-001 次回会合の件

この間はありがとうございました。さて次

【図13】

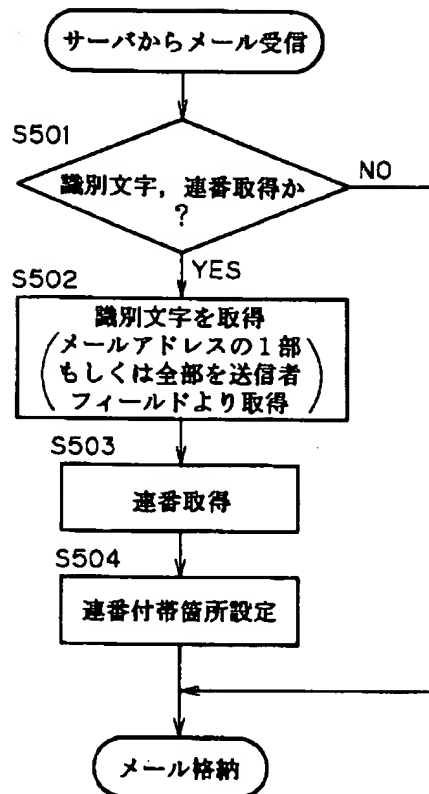
送信者 : taro@sharp.co.jp
 日時 : 1999年9月1日
 宛先 : jiro@nara.co.jp
 cc : saburo@nihon.co.jp
 件名 : 次回会合の件

taro@sharp-001
 この間はありがとうございました。さて次

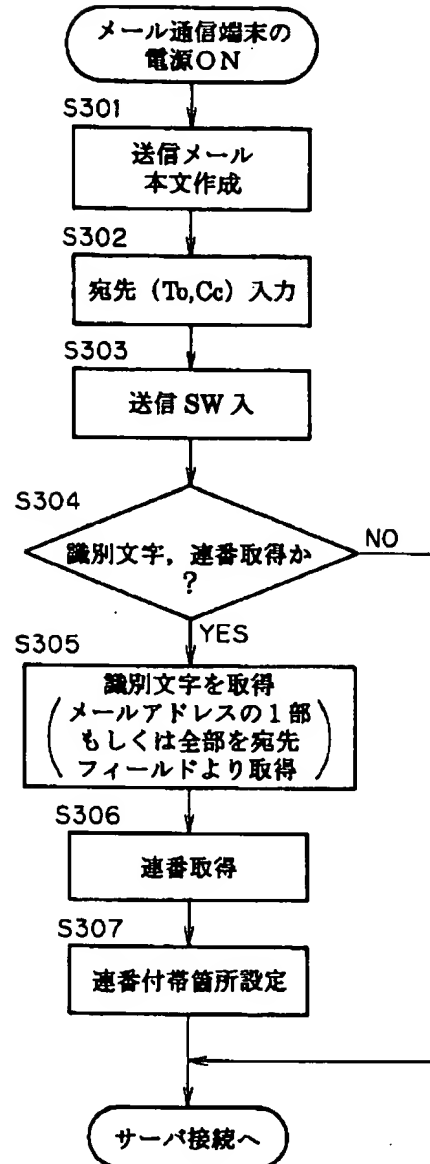
【図2】

送信者 : taro@sharp.co.jp
 日時 : 1999年9月1日
 宛先 : jiro@nara.co.jp
 cc : saburo@nihon.co.jp
 件名 : 990901-001 次回会合の件
 この間はありがとうございました。さて次

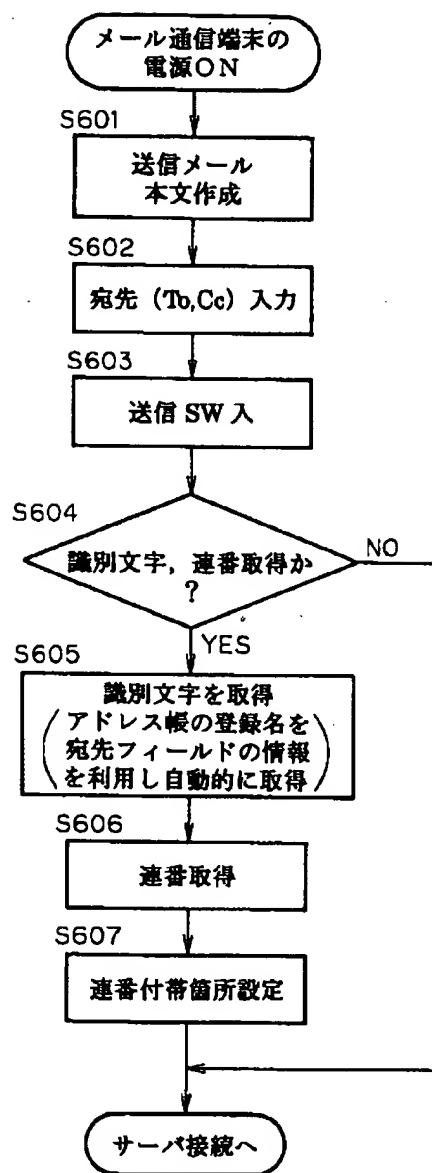
【図5】



【図3】



【図6】

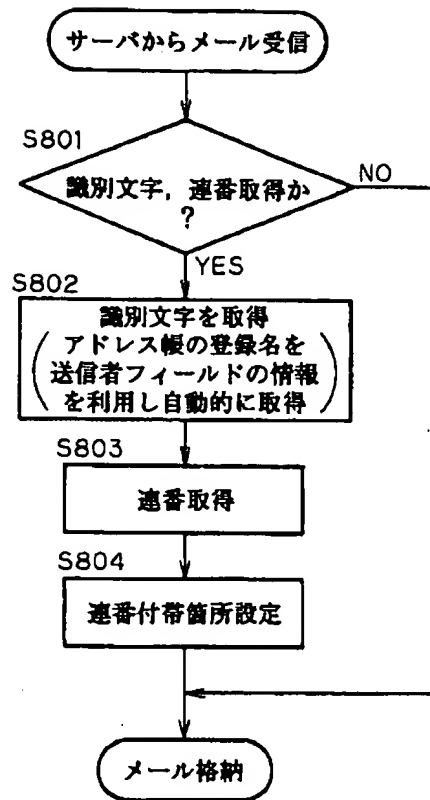


【図15】

送信者	: taro@sharp.co.jp
日時	: 1999年9月1日
宛先	: jiro@nara.co.jp
cc	: saburo@nihon.co.jp
件名	: 次回会合の件
連番	: taro@sharp-001

この間ありがとうございました。さて次

【図8】

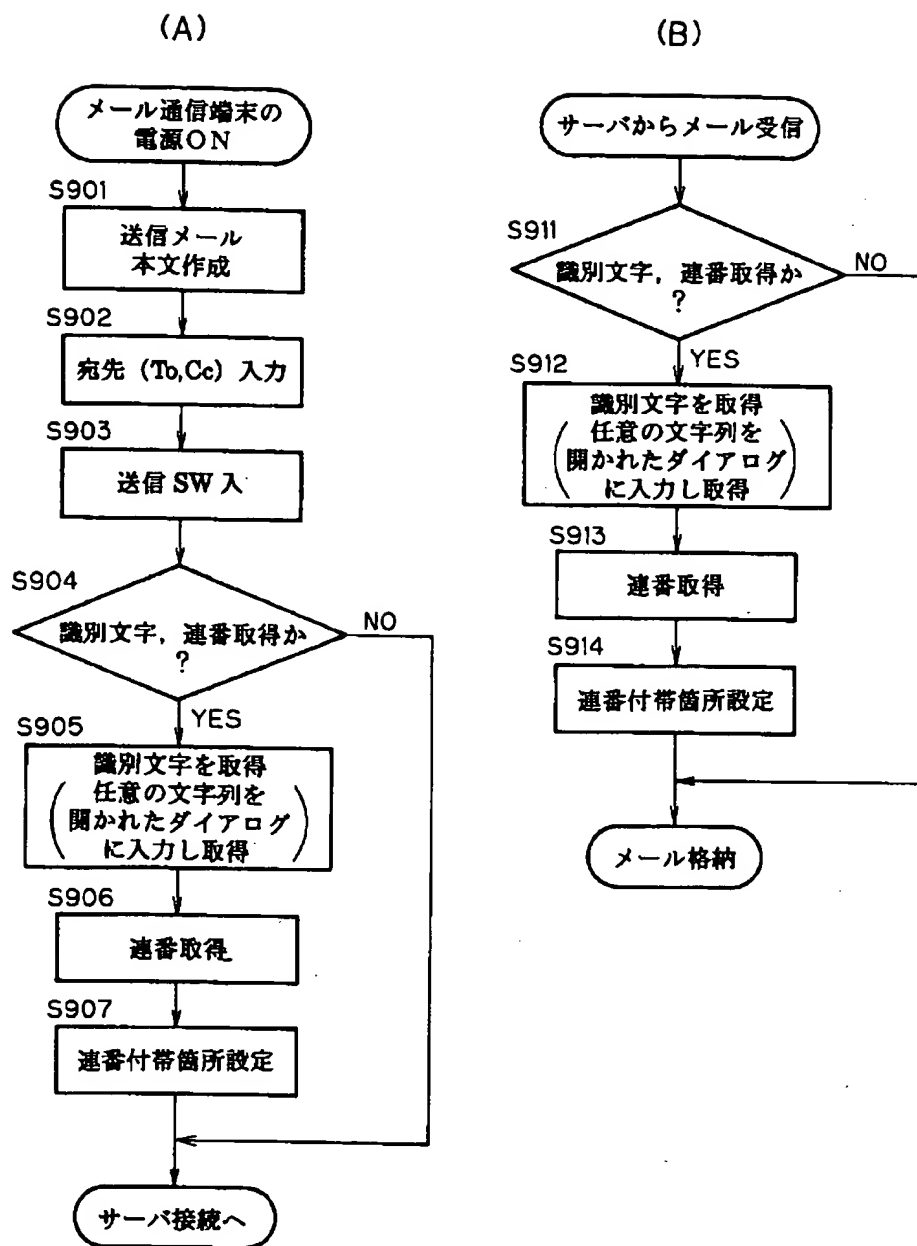


【図10】

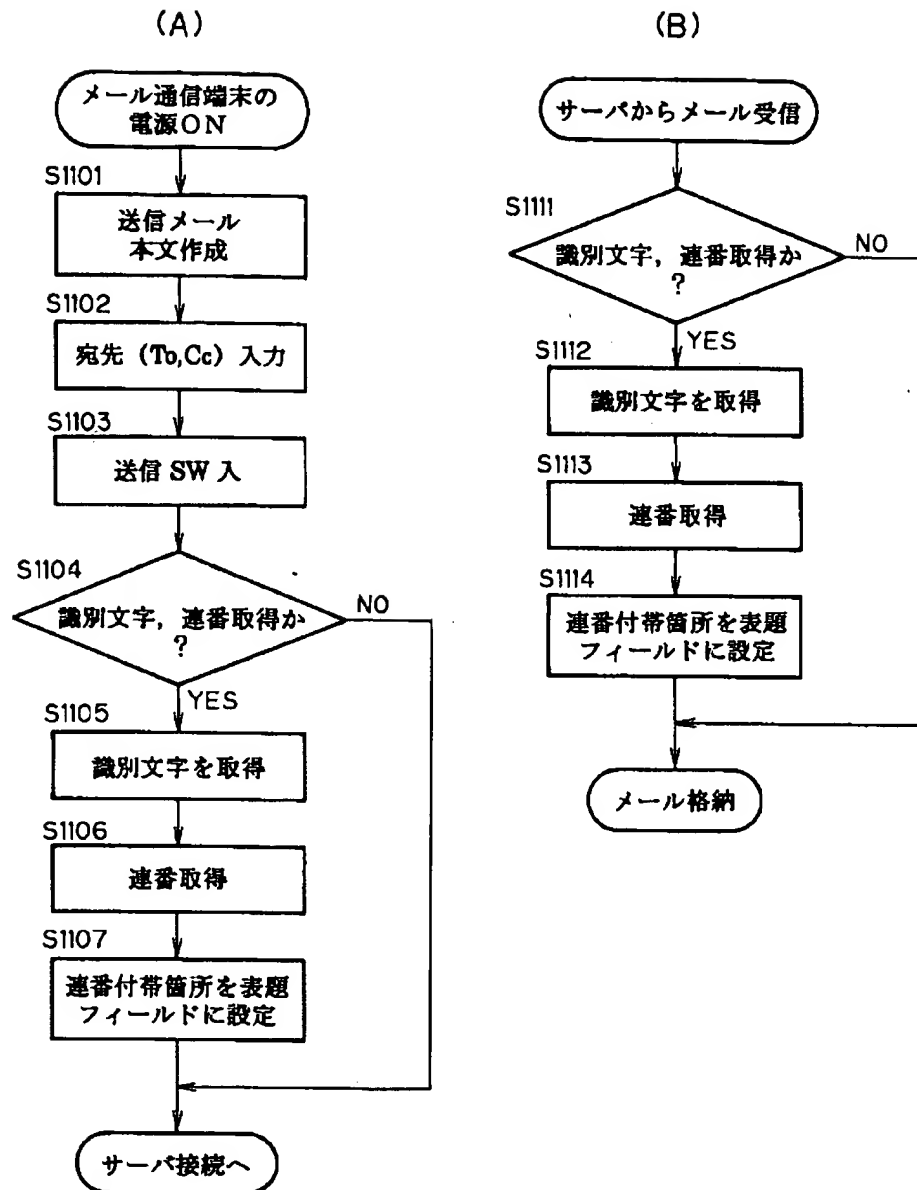
送信者 : taro@sharp.co.jp
日時 : 1998年8月1日
宛先 : jiro@nara.co.jp
cc : asaburo@nihon.co.jp
件名 : 釣-001 次回会合の件

この間はありがとうございました。さて次

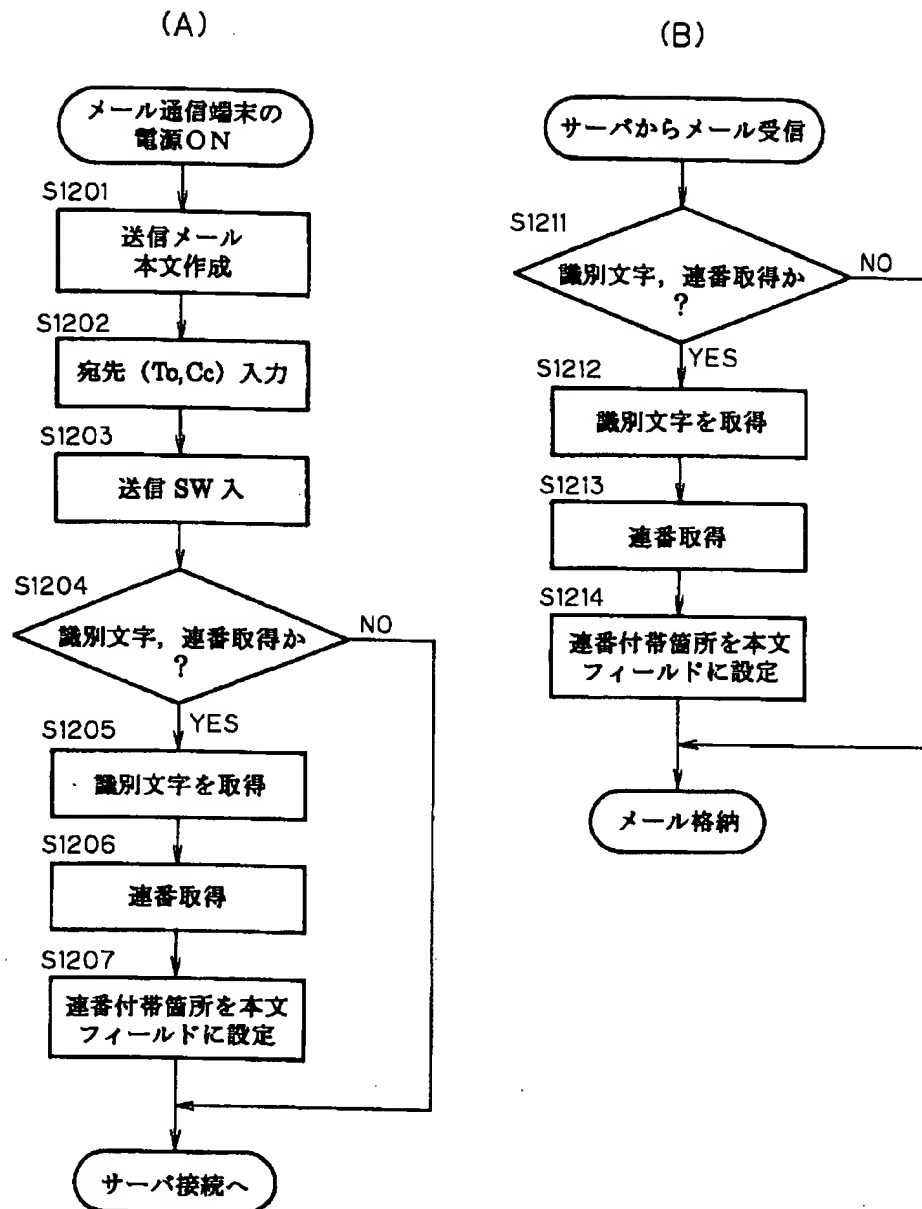
【図9】



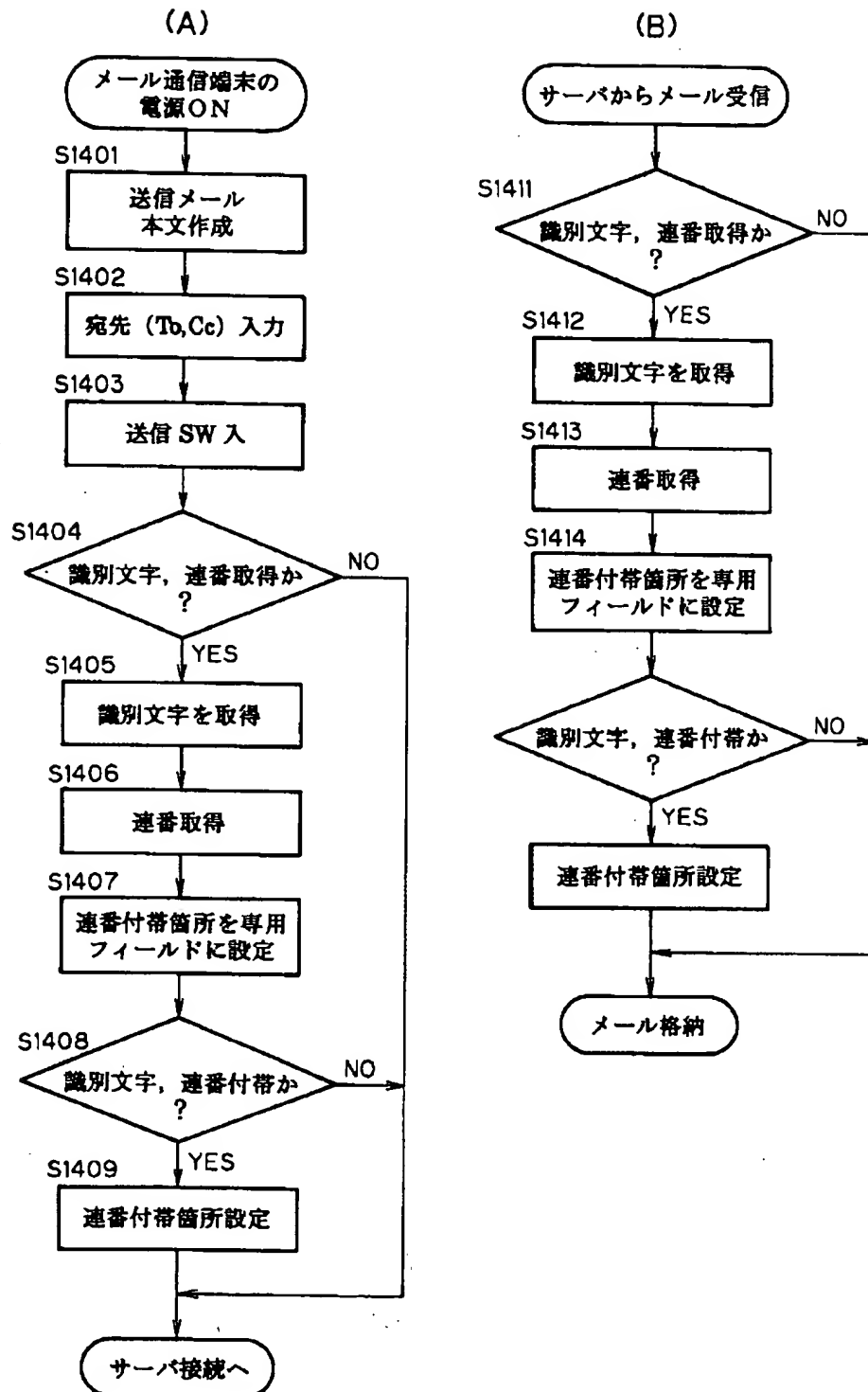
【図11】



【図12】



【図14】



【図16】

